

# 南部っ子

第6号

平成17年8月30日

寒河江市立南部小

## 響き合い 笑顔の花咲く 活力ある学校

### 八月の俳句

八月十九日は、全国俳句の日でした。

#### 一年

なつのそら きれいなうみに ひがしずむ きむら みのり  
 なつやすみ おもしろそうでも べんきようだ あやめたかひろ  
 すいかわり なかなかわかれず わたしわる いいぬまゆいか  
 ひぐらしの こえをきいての はかまいり うじいえなつき  
 うみのなか さかないいばい たのしいな しだ みぎぎ  
 あめやんで こうそくどうろ にじかがる くじょう たくと  
 たなばたの ささのはゆらり たんざくも すがい いずみ  
 あさがおが さいたらみんなに みせたいな いがらしみらい  
 ながればし きれいにながれて ねがいこと まつだじゆんな

赤とんぼ 車の中まで ついてきた 庄司 涼  
 ゆかたきて くるりとまわって ぼんおどり 中村 ゆいな  
 ぼんじたく きれいな花が よく目立つ 安孫子 優羅  
 ほかほかの カボチャ食べれば 力出る 志田 早紀  
 ひるあつく 朝夕すずしい ぼんやすみ 渡邊 南奈  
 いなづまの ぴかりにあわてて へそつかむ 大築 深  
 にわのせみ あみをもつたび にげられる 渡邊 真由

#### 二年

流れ星 見つけてすぐに ねがいごと 佐竹 昂士郎  
 花火見て ぼくもいつしよに はねあがる 高橋 尚寛  
 目覚ましの ようにせみ鳴く 夏休み 工藤 広人  
 ばあちゃんのはだけどれた 大トマト 那須 雄太  
 新じゃがを つぶして作った いもサラダ 高橋 駿  
 ビグラシの 声を聞きに 山へ行く 大江 晟汰

#### 四年

雨の中 みんなでいつしよに 墓まいり 盛岡 鮎美  
 雨続き いつできるのかな スイカわり 五十嵐 博子  
 夏休み たくさんどろろ カブトムシ 渡邊 聖也  
 赤とんぼ みんなそろって おさんぼだ 阿部 円香  
 墓まいり 心きよめて 手を合わす 阿部 駿貴  
 夏休み 宿題あせる 最後の日 菊地 甚一郎  
 電が せんたく物を おそつてく 古城 森悟  
 盆踊り いっぱいおどつて あせをかく 丹野 あずさ  
 赤とんぼ 空を飛んで わらつてる 古城 穰

#### 五年

親せきが みんな集まり 墓まいり 宇井 康太

#### 六年

おはようと きれいに咲いた 朝の顔 荒木 梨菜  
 盆前に 父と一緒に 墓そうじ 高橋 尚  
 盆踊り 夜空に響く 太鼓かな 大谷 梨沙  
 夏休み 最後の一日 貴重だな 加藤 雄大  
 赤とんぼ 秋を教えに 来てくれる 伊藤 満  
 パパと 線香花火 はじけてる 本間 俊成  
 盆踊り 花笠踊り 踊ったよ 辻 安優美  
 赤とんぼ 夕日に向かつて 飛んで行け 大沼 美琴  
 稲妻が ぴかっと光り おどろいた 宮林 拓也  
 たくさんの 種をとばすよ ホウセンカ 森谷 英一郎

#### 大人の部

夕焼けを 更にそめてく 赤とんぼ 大泉 孝文  
 夏休み 終わりに見つけた 秋の雲 尾形 さやか  
 赤とんぼ プールの周り 飛んでいる 田苗 裕実  
 夏座敷 ガキ大将が 昼寝する 阿部 美空  
 クワガタを 探しに行つたよ がい灯下 黒田 悠太  
 八の夜に きれいな花が 天に舞う 大西 条  
 勉強中 静かにしてね セミの声 北村 直人  
 子供達 中元どき 大はしやぎ 大沼 希  
 田の緑 残暑の風に ゆらゆらと 阿部 穂乃香  
 お日様も 夏の昼には サンガラス 和田 弥生

燈籠流し 水面をわたる 風涼し 今井和也 母  
 花笠や 我が師いずこや なつかしや 佐藤佑衣子 兄  
 短冊に 故郷想う 竹飾り 佐藤佑衣子 母  
 一匹のはえを家族が 皆で追う 古城森悟 祖母  
 虫がいる 違ふスイカの 種だった 古城森悟 母

夏来ると	部活が一層	つらくなる	古城森悟	姉
六時半	子等にぎやかに	一、二、三	土田	タミ子
水遊び	子等の歓声	笑み浮かぶ	土田	タミ子
西の空	夕星(ゆうざつ)	見つけ	土田	タミ子
真帆片帆	子等の行く道	健やかに	土田	タミ子
遠花火	遠き音に	父も居て	阿部美空	母
末の子も	新聞読み上げ	終戦日	阿部美空	母
始業式	まだまだ激しく	セミが鳴く	夢野	継木
暑中見舞い	ねふたの話で	熱くする	夢野	継木
夏座敷	先祖を迎えて	香を焚く	夢野	継木